

齋藤茂吉全集

第五十三卷

(第二期 第二十七回配本)

昭和三十一年九月八日 第一刷發行 © 齋藤茂吉全集 第五十三卷

定價五百六十圓

著者 齋藤 茂吉

發行者 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地 岩波 雄二郎

印刷者 東京都青梅市根ヶ布三八五番地 山田 一雄



發行所 東京都千代田區 神田一ツ橋二丁目三番地 株式會社 岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

精興社印刷・牧製本

目次

大正十四年	一
大正十五年（昭和元年）	七
昭和二年	一六九
昭和三年	二〇七
昭和四年	二四四
昭和五年	二七
昭和六年	一九九
昭和七年	三三〇
昭和八年	三七五
昭和九年	四〇九
昭和十年	四六〇

昭和十一年……………五〇五

後記……………一

大正十四年

一三〇一 〔一月一日 前田茂三郎宛（封筒缺）〕

恭賀新年 大正十四年一月元旦 只今支那海を航海して居ります。明朝六時に上海に著きます。航海は御かげ様にて無事です。然るに去る廿八日夜、青山腦病院より失火し、全部焼け、患者も廿名ばかり焼死したらしく、香港の英字新聞にも出て居りました。卅日の夜に東京より電報をうけとりました。病院の財産は全部焼けました。小生のものも全部やけました。ドイツ、オーストリーで買った書物も全部焼けました。しかし小生の事は何とかあきらめもつきます。父が苦闘數十年の成績が全く一夜にして灰燼に歸しました。今ごろは住する家もなく、茫然自失の有様だと思ひます。運命は實に人力のいかんともすべからずです。どうか今年はいゝ年でありたいと思ひます。最終の大兄の御心づくしの本箱も焼けました。心より大兄の御健勝をいのりあげます 茂吉山人 前田兄侍史（裏にも文句あり）

○實際小生も茫然自失です。將來の事などは何も考へたくなりませんでした。それから東京に行つても寐る處もない始末です。しかしこの際神明の御加護によつて、小生も心を立て直さねばなりません。大兄からも精神的の御援助を願ひます。○病院の再建も非常に困難だとおもひます。小生も今年一ぱいはその方に精力を費す覺悟です。

一三〇二 〔一月十日 杉浦翠子宛（はがき）〕

早速。感謝いたし候。小生當分茫然自失の態ゆゑ、いづれ御面會の上萬々御禮可申上候一ヶ月後にはやゝゆつくり御面會いたすべく、又いろいろ御願仕るべく候とりあへず御禮迄 茂吉

一三〇三 〔二月十一日 山形縣南村山郡本澤村管澤^{〔書〕} 結城光三郎様 青山自宅より（はがき）〕

七日夜歸朝。災害のため當分選歌も出來ぬ。そこで歌は今迄どほり發行處におくりくれ玉へ。「日光」にはいまだ歌出さぬ方よし 茂吉

一三〇四 〔二月十八日 大阪東區空堀通一ノ八二 寺澤亮様 消印駒込（はがき）〕

御手紙並御歌集忝ク拜受仕候小生モ數月ノ後ニハユツクリ拜讀可仕取不敢御禮 敬具 齋藤茂吉拜

一三〇五 〔二月二十七日 千葉縣富津町富津館旅舎 百穂先生侍史 消印青山（はがき）〕

（一）謹啓○先日以來鴻恩山よりも高く候○久しぶりにて牛肉すきやきたべうれしうれし○奥様御嬢さんお生み、めでたくめでたし○屏風も實に忝し○小生歌十女性に出したり、おゆるし願○赤彦にあふ嬉し。改造社より自選集出す。赤彦憲吉も出す由○閉居。患者みる。警視廳、内務省へも出頭。今後二十年は汗にまみれて働き申すべし。敬具 ツバク

一三〇六 〔二月二十七日 千葉縣富津町富津館旅舎 平福百穂畫伯 消印青山（はがき）〕

（二）○只今、地震以來絶版になつてゐた「璞」の再版を企て、校正してゐます。もう古い歌ですから絶版にしようと思ひましたが、印税も少々欲しい處からこんな事しました。○ところが七面鳥の寫眞種板も焼けてしまつて、渡邊草童君に御願するの時日がありませぬ。そこで、どうぞどうぞ略畫でもよろしきゆゑ、七面鳥のめ

んどりの處を奉書紙か何かにおかき下さいませぬか、とりいそぎ厚顔の御願いたし升 敬具

一三〇七 〔二月二十八日 千葉縣富津町富津館 百穂畫伯侍史 消印青山（はがき）〕

只今屏風二つ、きやうじやよりとゞき候。何とも何とも忝し。それに、屏風は大きく堂々として居り候。あれにかいていたゞけば實に忝けれど、勿體なき心地いたし候。廣間も天井に紙はり、追々整正申し。大に勉強仕るべく候、御禮 頓首 きやうじやは米澤の産のよし米澤辯をつかひ居り心持よろし

一三〇八 〔二月二日 市外笹塚一〇二六 河野愼吾様 青山自宅より（はがき）〕

御同情深く感謝たてまつり候いづれ御面晤の節萬々可申上候 敬具

一三〇九 〔二月二日 杉浦翠子宛 青山自宅より（はがき）〕

啓上。及川壽治子さんの名産鮭のくんせい頂き感謝無量〇焼^{（不明）}あと堀り、あなたの古いハガキなど一二枚みつかる。そのうち御送仕る〇三月はじめには部屋の都合もつ□□申 敬具 一四、二、二 青山脳病院内 齋藤茂吉

一三一〇 〔二月三日 朝鮮釜山府立順治病院長 森路寛様 青山自宅より〕

謹啓御手紙忝い。君の御手紙は實に眞情こもつてゐて僕は感謝してゐる。〇何しろ大に辛抱してやつてくれ玉へ。ぼくも實に堅い決心でやるつもりだ。〇紅毛船の中に小生の文章の載つたのが欲しいのだが、前田毅君に御願して送ってもらつていいか〇大久保君に是非僕の事を報じてくれ玉へ。そして毎月一二首でもいいから作るやうにいつてくれ玉へ。君も一二首づゝ作れ〇御手紙の字は奥さんの字か君の字か 〇 茂吉拜 森路兄

侍史

一三一 二月三日 信濃諏訪郡本郷村 小池晴豊様 青山自宅より（はがき）

感謝奉り候 二月三日

一三二 二月三日 本郷西片町十 佐々木信綱様侍史 青山自宅より（はがき）

御同情深く感謝奉り候 二月三日 青山脳病院内 齋藤茂吉拜

一三三 二月三日 兵庫縣西ノ宮町香櫛園池畔 中邨憲吉様 青山自宅より

拜啓○實に感謝に堪へず候。病院新築の事は、やはりオヤヂがやる都合にて僕も少々意見をいふが僕の一人意見といふ工合には行かぬ。右御承知願ふ。○それから反對運動もあれども、同情者の方が割合に多いから、何とかなる事と思ふ。ただ地主が反對運動やりをするので困りあるしかし僕は餘りその方の心配はせずにある。心配しても爲方なきゆゑなり。○日が経つに従つて悲觀の念が強まる。しかし友人にもその顔付を見せぬ事にしてゐる。それ故御安心願ふ。○兎に角今後は奮闘するつもりだ。醫者の方の爲事は僕が主にやるやうになるであらうと思ふ○何にせ、まだ茫然としてゐる。今しばらくはこのまゝに候べし○こゝまで書いた處に古泉君が來た。三十分ばかり話をした○畫伯は六日頃かへる、赤彦は伊豆に入湯中 敬具 二月三日 茂吉拜 憲吉雅兄

一三一四 二月三日 千葉縣富津町富津館 平福先生侍史 青山自宅より

謹啓御手紙只今拜受仕り候「七面鳥」の御無理な御願御聽可被下何とも難有御禮申上候○赤兄、伊豆の何とか

温泉よりハガキあり「明朝山越して土肥にゆく由有之その後たよりなしそれゆゑ小生も失禮いたし居り候○再建の事いろいろ反對運動もありしらしけれどもまた同情者も多き事故御安心願上候○明後日あたり御宅に一寸参上仕るべく候。○昨夜、渡邊草童君御いになり一時間ばかり御話仕り候○今日、古泉君が来て卅分ばかり話いたし候 敬具 二月三日 齋藤拜 百穂畫伯侍史

一三一五 〔二月三日 山形縣南村山郡本澤村管澤^{〔管〕} 結城光三郎様（はがき）〕

御手紙拜受○御歌は來月より小生宛直接御おくり願ふ。數は少し多く願ふ○御上京は少し御延し願ふ。いま來ても、ゆつくり話する處もなし

一三一六 〔二月十五日 信濃下諏訪町高木 久保田不二子様 青山自宅より（はがき）〕

御同情ふかき御たより深く感謝奉り候いづれ萬々申上べく候 敬具

一三一七 〔二月十五日 山形縣南村山郡本澤村管澤^{〔管〕} 結城光三郎兄 消印青山（はがき）〕

拜受○毎月の歌は、嚴選するから、數多く、しつかりやつてくれ玉へ○上京は農事の忙しくならない前の方よろし。上京の節、納豆十ばかり御土産に持つてきてくれ玉へ。

一三一八 〔二月十五日 前田茂三郎宛（封筒缺）〕

拜啓、御無沙汰の罪御ゆるし被下度願上候。新年賀の美人繪ハガキとゞき申し、鼻のひくい日本女の前にゐては、やはり西洋の女がなつかしく候。それゆゑ、この點は出来るだけ御享樂のほど願上げ候。東京の町を歩く、極く極くまづい西洋の娘でも心引き候ゆゑ、ベルリン、パリの本場のものは心ひくのが無理に候はず候。○青

山腦病院の火事は、何しろあの廣大な建物がべろりと焼けたのであるから悲慘に候。しかも火災保險金が一文も無いといふのであるから、いよいよ悲慘に候。先づ先づまるはだかとはこの事に御座候、○小生夫婦の歸朝のために建てかけの小さい家が残り、そのなかに家族が皆生活して居り候。實にみじめに候。それに風邪はやり、皆ごほんごほんに御座候。○青山腦病院の再興に就ても、反對運動のことが新聞に出たり、又地主との爭論、裁判のことが新聞に出さ^{〔原〕}りいたし候。紀一おやぢの事故餘り手をひろげ、何にでも關係し、そしてその場その場をごまかして行くのに妙を得てゐるのだから、どうしても「スキ」が多く候。それゆゑ、永遠の計をやるといふ事などは出来がたく候。かういふ點に就ては、小生も非常に不満足に候へども今更いかんとも爲し難く候。先づ先づ當分は、苦しい道を歩まねばならぬ處と存じ候。○十二時半頃、本當は火鉢から布團にうつり、酒に酔つてねたのでそれを知らずにゐて、消火せんの大きいのがあつてもそれが用をなら^{〔原〕}ず、患者を出たのにばかり全力をそゝいで、見る見る焼いてしまつたのに候。○ところで、幸にも大兄より、昨年の夏送つて頂いた本箱の本は少部分助かり申候。これも神の助けに御座候。しかし二年ばかり前に、第一回の本箱を送つて貰つたのは、どうも到著して居らず候。これは大兄より送つて頂いた、受取證をさがし申すべく候へども。大兄も、本當に御暇の時にあたつて見て下されまじく候や。もうあの男は税關には居らざるべく、手のつけやうが無いとも考へられ候。しかし聞く處によれば、ハムブルグの税關(?)の倉庫には、さういふ箱が山と積まれてゐるといふことも聞き申候。若しひよつとせば、そんな處にでもあるのではないかと存じ候。それから、ウインより送りありし古手紙の一部が助かり居るゆゑ若し幸に受取書にても見つかり候はゞ送り申上べく候。この方は一つ御考おき被下度願上げ候。○御尊父より、何か茂三郎よりの土産なかりしやとの御たづね有之候へども、その方は國境の税關の方がやかまじく、茂三郎君は國家の役人ゆゑ、通過が樂のため、小生は持つて來なかつたとその由、申上げおき候。○小生は歸朝以來一ヶ月半になり候へども、全く何もせずと謂つてよろしく候。只、小生の古い本を今度新たに發行するので、その方の校正したり、歌少々雜誌に出したり、誰も留

守する醫者が居ないところより、小生が診察をしたり、實に不徹底な生活をいたし居り候。しかし、小生は決して人を怨みず、自らの不敏を悲しみ居り候。○ひよつとせば、大兄の伯林に御いでうちに、書物を買つて頂きたく候が、奈何に御座候や。代價は、日本貨に換算して、大兄の御歸朝後に支拂つて頂いてよろしく御座候や、そのへんも何卒御返事下されたく候。しかし、ドイツ本が高くなりしゆゑ、もう幾らも買ふ事が出来ず候、○競馬ちかごろ如何に候や、御近況伺上候、二月十五日夜、茂吉癡人拜 前田大兄侍史

一三一九 二月二十日 兵庫縣西ノ宮、香櫨園池畔 中村憲吉様 青山自宅より

拜啓。その後失敬いたし候。大兄が三月十日ごろ御上京の由、非常によろこび居り候。その節、白田舎かりて編輯會ひらきたく存じ居り候。赤彦よりハガキあり候。畫伯は、目下やはり千葉縣に候。○小生の病院の方も、いろいろの事件重なり居り候。しかし小生はたゞ氣を揉むのみにてオヤヂが萬事やつてゐるので、餘り口出しも出来ずに居り候。大兄が上京なされたならばまたいろいろ御話もし、きいて頂きたく候。○外來の診察もあるので小生は外出も出来ずに居り候。従つて、すぐ鼻の先の小宮、古泉兩氏の處にも行けずに居り候○非常にすまぬが、若し、「茂吉選集」「白秋選集」御持ちでしたらば御貸し願上候。或は大坂にて御求め下され候はゞ尙難有く候。代價は御上京の節差上げ申すべく候。○今日は、木下利玄君の告別式が高輪泉岳寺にあり候。小生もはやめに出かけ申候。かへり路に思ひがけなく、森園天淚。鎌田虚燒君におあひし候。コーヒー店に入り半時間ばかりはなし候。代價は森園君拂ひくれ候。その時に、大兄も都合よく東京に御いで出来るよし大によろこばしく候。少しく骨折り下されたし○僕はアララギに三つ歌出した。どうも卅一文字の勝手がちがふので困る。けれども若いものにはまだ負けぬつもりなり○改造に漫筆を書けといふ、しかし、荷の整理が出来ぬので材料に困りある。○奥さん、御嬢さんによろしく願います。どうも御無沙汰がちでいけぬ。二月十九日夜

茂吉山人 憲吉兄侍史

一三二〇 〔二月二十五日 市外田端六一三 室生犀星様 青山自宅より〕

おもほえず君がみうたをよむときはなみだおちたりなさけしぬびて
おのづからわれ衰へてあはれる歌もこのごろなかりけるかな

御手紙忝く候。歸朝はせしものゝ悲觀して居り候。どうもいたしかたなし かしこ 二月廿五日 茂吉山人
露及詞宗

一三二一 〔二月二十七日 兵庫縣西ノ宮香櫨園池端 中村憲吉兄 消印青山（はがき）〕（得能
賀衛氏藏）

白秋。茂吉選集二冊御送附下され御厚情實に忝し。御上京一日千秋の思でまち居り。奥様にもよろしく願上候
一三二二 〔三月一日 杉浦翠子宛 青山自宅より（はがき）〕

謹〇昨夜は非常なる御盡力をかうむり申候〇御著「みどりの眉」の中より最も得意なもの二十首、或は三十首
ぬき御しらせ下されたく候。〇衰草果は十一日午前中に大道寺吉次と一しよに僕のうちに來る筈也。多分一夜、
あなたの處にとめて頂くことあるべし。發行所に一夜とまらせるべし。二〇 青山南町五ノ八一 齋藤茂吉

一三二三 〔三月二日 山形縣南村山郡本澤村管澤 結城衰草果様 消印青山（はがき）〕

御手紙受〇十一日に御いでになるさうだが昨日、百穂畫伯にあつたら、もつと早く來るやうにいつてくれとの
事であつた〇アララギにもあるやうに三月七日午後一時より歌會もあるゆゑ、それに間にあふやうならばなほ、
よろしく候はむか、しかし君の都合にていづれでもよろし小生はたいがいゐる。小生は六日の夜は留守也、三
月二日 茂吉拜

一三二四 (三月二日 杉浦翠子宛 (はがき))

拜啓御手紙拜受、○御手紙は大正十四年迄は全部焼失○その後のも全部焼却の都合ゆゑ御安神願上候そのかはり迂生のも全部御焼却下されたく御願申上候、○右御返事迄

一三二五 (三月三日 山形縣南村山郡本澤村管澤 結城哀草果様 消印青山 (はがき))

納豆御持参下さるよし忝しさう數は澤山はいらぬ。○それからガンドウといふもの (四十七士が持つてゐるやうなもの) 金瓶の家にあるゆゑ一つ貰つて來て下されたし。或は大兄の家から貰ひ下されてもよしノ中ニ蠟燭がとるやうに出來てゐる。

一三二六 (推定大正十四年) 三月三日 平福百穂畫伯侍史)

拜受何とも忝しいづれ拜趨萬々 敬具 三月節句 茂山人 百穂先生侍史

一三二七 (三月六日 横濱市青木町四九九 鶴木保様 青山自宅より)

拜啓益々御清穆奉大賀候。アララギ誌上にて御願仕り候件に就き早速懇篤なる御手紙頂戴仕り深く深く感謝たてまつり候。就ては甚だ勝手がましく候へども、小生の文章の載り居るものだけにてよろしく御座候につき御惠送被下度幾重にも御願たてまつり候。若し友人のうちにて寫字の勞をとり呉るゝかた有之節には、その雜誌は御返却叶ふ事と存じ候へども、「林泉集雜感」の如きものは、何卒切抜かせ下されたく御願たてまつり候。御送下さる雜誌は御都合により一度でなく數回に分けて御送り下されてもよろしく御座候。右御親切なる御言葉に甘え御願仕り候、何卒不惡御思召のほど願上候。不盡 三月六日午後 齋藤茂吉祥 鶴木保様侍史



追伸。貴堂は、小生の『言葉の吟味二三』に對する晶子夫人のべんばく文の載りし雜誌、(大正十年一月號の婦人世界?)御所持にて御いでに候はゞ拜借仕りたく、伺上たてまつり候 敬具

一三二八 (三月八日 朝鮮釜山順治病院長 森路寛様 青山自宅より)

拜啓君の御手紙も身に沁みて讀んだ。○大久保の病氣の事も實に悲しんでゐる。僕は久保にも手紙出した。そして歌をよむやうに云つた。又歌をおくるやうに話した。○僕と一しよに作歌した人々はだんだんへるのは寂しい事である。○それから古歌漫抄の原稿が全部あるさうだが、あれはどうか送つてくれたまへ。僕はもつと増補して、印刷にしたならば全部又君の處におくりかへすつもりだ。又前田君からも送つてくれるだらうがそれも頂くつもりだ、○どうも僕は只今苦しい生活をしてゐる。けれども神明は僕を棄てない事を信じてゐる。僕は毎日、稀に來る患者の診察もしてゐる。○當分歌の選が出来ない。しかし、そのうちにするつもりだ。三月八日 茂山人 寛兄

一三二九 (三月八日 山形縣南村山郡本澤村管澤 ^{〔實〕} 結城哀草果様 青山自宅より)

拜啓、金井を夕方立つて東京上野驛に朝五時五十五分著の由なるが、濱田を迎へにやるけれども、電車が朝五時からでないとお通じない。そこで一番の電車に乗つても上野驛に行くには、一時間はかゝる。それゆゑ、君が上野驛に著いたならば、一二等待合室に待つてゐて呉れ玉へ。六時半か七時頃までには濱田が迎へに行く。待合室は、出口で切符を渡してしまつてから人に聞けば分かるから、必ず一二等待合室で待つてゐて呉れ玉へ。委細は面談 茂吉 結城君

一三三〇 (三月九日 杉浦翠子宛 青山自宅より (はがき))

拜受。僕の處からも結城君を迎に行きます。その書生は結城君を知つてゐます。(書生ハ結城君ト同郷デス) あなたの處からは迎に行く必要は全くありません。それからそれでも、若し御いになつて五時五十五分に間に合はぬならば待合室で待つてゐるやうに結城君にいつてやりました。あなたの甥の方は御迎に御いになる必要はないと思ひますが、しかし貴女の思ふとほりにして下さい。

一三三一 (三月十日 横濱市青木町四九九 鵜木保様 青山自宅より)

拜啓あつき御同情實に感謝のほか御座なく候。「行人」「白秋君」「苦中眞珠」正に拜受仕候特に晶子夫人の文章を、貴堂御所持なされしは感謝無限に御座候。實は出帆前に晶子夫人に對する返事もちゃんと書いて出帆いたしたる次第に候ひしが、それも焼け申候次第に御座候このたび貴堂の御助けにより二たび返事かくことを得候は多幸この上なく候○次に、若し珊瑚櫛全部御惠送下され候はゞ一番難有く御座候。小生は大切に保存仕るべく、若し貴堂御入用の節はいつなりとも郵送可仕候。右、あらためて御願申上候。○來月よりアララギ送り仕るべく候につき何卒御受納下されたく願上候 敬具々々 齋藤茂吉拜 鵜木保様侍史

一三三二 (三月十三日 福井縣今立郡味眞野村養脇 畠山元三郎様 青山自宅より (はがき))

謹啓小生の歌の切抜正に拜受。御親切何とも感謝の外無之候取りあへず御禮迄 三月十三日 齋藤茂吉

一三三三 (三月十六日 芝區白金三光町五三八 辻村直様 青山自宅より (はがき))

御手紙忝く頂き申候。材料集り候へども、今の處淨書ほどのものに無之候。○十一日に衰草果來り、發行處にとまり明日かへるらしく候。○用ある時には是非御願仕りたく 敬具

一三三四 〔三月十六日 朝鮮釜山順治病院長 森路寛様 青山自宅より（はがき）〕

原稿著いた。實に難有い。少々増補して、用すみ次第送るから又しまつておいてくれ玉へ。長崎での記念だからさう願ふ。敬具、茂吉

一三三五 〔三月十六日 横濱市青木町四九九 鵜木保様 青山自宅より〕

謹啓きのふは態々御使者御つかはし被下、珊瑚礁御惠送下されし事感謝々々至極に御座候。あいにく小生留守いたし失禮千萬いたし申候これは何卒惡しからず御思召のほど願上げ候。○小生、字の方はどうも下手にて自信無之候へども短冊も數葉かき申すべく候間御序の節御おくりおき願上候○御歌の「かさこそ」の事も難有く御座候。林泉集の方、どう書いたか分からず候間いづれ讀いたし、訂正可仕候○御多忙中萬々御盡力に預り感謝無量に御座候取りあへず 敬具 三月十六日 齋藤茂吉拜 鵜木保様玉案下

一三三六 〔三月十七日 市外千駄谷八六九 淺野利郷様 青山自宅より〕

謹啓先夜、小生の歡迎會にはいろいろ御厚情御禮申上候。それから「歌集日本」御惠送に預り深く御禮申上げ候。大兄はいろいろの歌の雜誌にて活動して居らるゝを見て喜び居り候。小生どうも疲れて居り候これは精神的に心配あるせいに御座候。小生も何とかして少しづゝ作をも拵へたく存じ居り候いづれ萬々御禮迄 二〇〇
齋藤茂吉 淺野詞兄侍史

一三三七 〔三月二十一日 杉浦翠子宛 青山自宅より〕

拜啓、御手紙頂きました、○あなたの歌集の會のこと喜んで賛成しますすがひよとせば（旅費の工合で）福岡の